

第70回 生活と環境全国大会 プログラム集

未来の環境をデザインする

主催：一般財団法人日本環境衛生センター
後援：環境省、厚生労働省、埼玉県、さいたま市



提供：さいたま市

50年を造る、 100年を創る。

1938年に自分たちの技術で社会に貢献する精神のもと、ボイラーを製造する会社からスタートしたタクマ。環境への負担が少ないごみ焼却施設やバイオマス発電所、地域の拠り所にもなるクリーンセンターなど、50年以上必要とされるものを造り、お客様や地域の日々を支えています。

これからの私たちに求められていること。それは、50年を造る技術やサービスを発展させ、環境・エネルギーのリーディングカンパニーとして、従来の枠にとらわれず、気候変動への対応や循環経済など、100年先を見据えたサステナブルな社会を創っていくこと。

50年を造る、そして、100年を創る。

これはタクマの企業価値であり、私たちのミッションです。創業時から変わらない想いを胸に、未来に向けて必要とされるものを生み出し、お客様や社会に必要とされる企業であり続けます。

一般廃棄物処理プラント

- ストーカ式焼却炉
- リサイクルセンター
- バイオガス回収プラント
- ガス化熔融炉・灰熔融炉

エネルギープラント

- 非化石エネルギープラント（バイオマス、RPF等）
- 産業廃棄物処理プラント

水処理プラント

- 下水汚泥焼却発電プラント
- 砂ろ過装置

株式会社タクマ

〒660-0806

兵庫県尼崎市金楽寺町

2丁目2番33号

TEL.06-6483-2609(代表)

コーポレートサイト



目次

第70回生活と環境全国大会

ごあいさつ	1
開催概要／参加にあたっての注意事項	2
タイムテーブル	3
会場図	4
大会式典・特別講演	6
環境保全公開講座	7
廃棄物公開講座	9
生活衛生公開講座	11
廃棄物最新処理技術セミナー	13
生活と環境展示会	14
事例研究発表会	15



Kanadevia
Technology for people and planet

技術の力で、人類と自然の調和に挑む

本社：〒559-8559 大阪市住之江区南港北 1-7-89
TEL. 06-6569-0001

東京本社：〒140-0013 東京都品川区南大井 6-26-3 大森ベルポートD館15階
TEL. 03-6404-0800

<https://www.kanadevia.com/>

ごあいさつ



第70回 生活と環境全国大会
大会長 奥村 明雄
(一般財団法人日本環境衛生センター 会長)

第70回生活と環境全国大会の開催にあたり、ごあいさつを申し上げます。

本大会は、身近な生活環境から地球環境に至るまで、幅広い環境問題について、それぞれの立場で考え、行動する皆様が交流し、意見交換を行う全国的な大会として開催されてまいりました。

関係者の交流とネットワーク形成、情報発信、そして時代ごとの重要な課題を共有する場として、大きな役割を果たしてきたものと考えております。

第70回となる本大会は、「未来の環境をデザインする」をテーマに、2026年10月21日（水）から22日（木）までの2日間、埼玉県さいたま市のソニックシティにて開催いたします。

環境の視点から、持続可能で安心できるくらしの未来像を考え、分野や立場を越えた知見をつなぎ、その実現に向けた道筋を探ることは、これからの社会にとってますます重要になっています。

廃棄物・資源循環、生活衛生、環境保全の各分野において、多様な関係者が一堂に会し、課題の共有と解決に向けた議論を深める機会となることを期待しております。

大会式典では、環境大臣表彰、厚生労働省健康・生活衛生局長感謝状、生活と環境全国大会会長感謝状の贈呈を行います。
長年にわたり生活環境の改善・向上に貢献され、多大な功績をあげられた皆様に、深甚なる敬意を表しますとともに、心よりお祝い申し上げます。

また、特別講演では、茨城県自然博物館 館長の山崎晃司氏をお招きし、「なぜクマは人里に来るのか？—生活環境から考える対策—」をテーマにご講演いただきます。
さらに、公開講座や生活と環境展示会を通じて、生活と環境に関わる幅広い分野の最新情報をお届けします。

最後になりましたが、今大会の開催にあたり、ご後援をいただきました環境省、厚生労働省、埼玉県、さいたま市の皆様、ご協賛をいただきました関係団体各位に深く感謝申し上げ、ごあいさつといたします。

開催概要

項目	内容
主催	一般財団法人日本環境衛生センター
日程	2026年10月21日（水）～10月22日（木）
会場	ソニックシティ（埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-7-5）
後援	環境省・厚生労働省・埼玉県・さいたま市
参加費	無料

一協賛団体一覧

株式会社エネルギージャーナル社 一般社団法人環境衛生施設維持管理業協会 株式会社環境産業新聞社 株式会社環境新聞社 特定非営利活動法人最終処分場技術システム研究協会 一般社団法人産業環境管理協会 公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団 一般社団法人持続可能社会推進コンサルタント協会 公益財団法人日本環境整備教育センター 一般社団法人日本環境保全協会 公益財団法人日本建築衛生管理教育センター 公益社団法人日本ベストコントロール協会 一般社団法人プラスチック循環利用協会	一般社団法人浄化槽システム協会 全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会 全国環境衛生職員団体協議会 全国環境整備事業協同組合連合会 公益社団法人全国産業資源循環連合会 一般社団法人全国浄化施設保守点検連合会 全国浄化槽推進市町村協議会 一般社団法人全国浄化槽団体連合会 公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター 公益社団法人日本水道協会 株式会社日本水道新聞社 一般社団法人廃棄物処理施設技術管理協会 一般社団法人全国清掃事業連合会	公益社団法人全国都市清掃会議 公益社団法人大気環境学会 日報ビジネス株式会社 一般社団法人日本火葬技術管理士会 日本家庭用殺虫剤工業会 一般社団法人日本環境衛生施設工業会 公益財団法人日本環境協会 特定非営利活動法人日本環境斎苑協会 日本防疫殺虫剤協会 ねずみ駆除協議会 一般社団法人廃棄物資源循環学会 公益財団法人廃棄物・3R研究財団
---	--	---

参加にあたっての注意事項

- **受付について**
本大会では、総合受付は設置せず、各企画の会場または入口付近に受付を設けます。
参加される企画の会場へ直接お越しください。
各企画の受付は、原則として開演の30分前から開始します。
受付では、事前申込情報をもとに作成した参加予定者一覧により確認を行います。
事前申込をされていない方は、受付にて名刺をご提出ください。
- **喫煙について**
喫煙は、会場所定の喫煙所をご利用ください。
- **携帯品の保管について**
事務局では、携帯品の一時預かりは行いません。
会場内または近隣施設のコインロッカー等をご利用ください。
- **スマートフォン等の使用について**
会場内でのスマートフォン等の使用は、進行の妨げや他の参加者の迷惑となる場合があります。
マナーモード等に設定のうえ、ご入場ください。また、講演中の写真・動画の撮影は、お控えください。
- **緊急時について**
緊急時には、主催者の運営スタッフが避難誘導を行います。
体調が悪くなった場合は、最寄りの運営スタッフにお申し付けください。
- **感染症拡大防止について**
会場内における感染症拡大防止にご協力ください。体調の優れない方は来場をお控えください。

タイムテーブル

10月21日（水）

時間	プログラム	会場	対象
10:30~12:00	大会式典・特別講演	小ホール	どなたでも参加可能
13:00~14:30	環境保全公開講座	国際会議室	どなたでも参加可能
14:45~16:45	全国環境衛生・廃棄物関係 課長会廃棄物部会	市民ホール402	会員限定
14:45~16:45	全国環境衛生・廃棄物関係 課長会環境衛生部会	市民ホール403	会員限定
17:00~17:30	全国環境衛生・廃棄物関係 課長会総会	市民ホール403	会員限定
10:00~17:00	生活と環境展示会	国際会議室前ロビー	どなたでも参加可能

10月22日（木）

時間	プログラム	会場	対象
10:00~12:45	全国環境衛生職員団体協議会 事例研究発表会	市民ホール402	どなたでも参加可能
12:00~14:00	廃棄物最新処理技術セミナー	小ホール	どなたでも参加可能
13:30~14:00	全国環境衛生職員団体協議会 総会	国際会議室	会員限定
14:20~16:20	生活衛生公開講座	国際会議室	どなたでも参加可能
14:30~16:30	廃棄物公開講座	小ホール	どなたでも参加可能
10:00~15:00	生活と環境展示会	国際会議室前ロビー	どなたでも参加可能

会場図

JR大宮駅から会場へのアクセス（歩行者デッキ直結 徒歩3分）

ソニックシティビル
・市民ホール（4階）

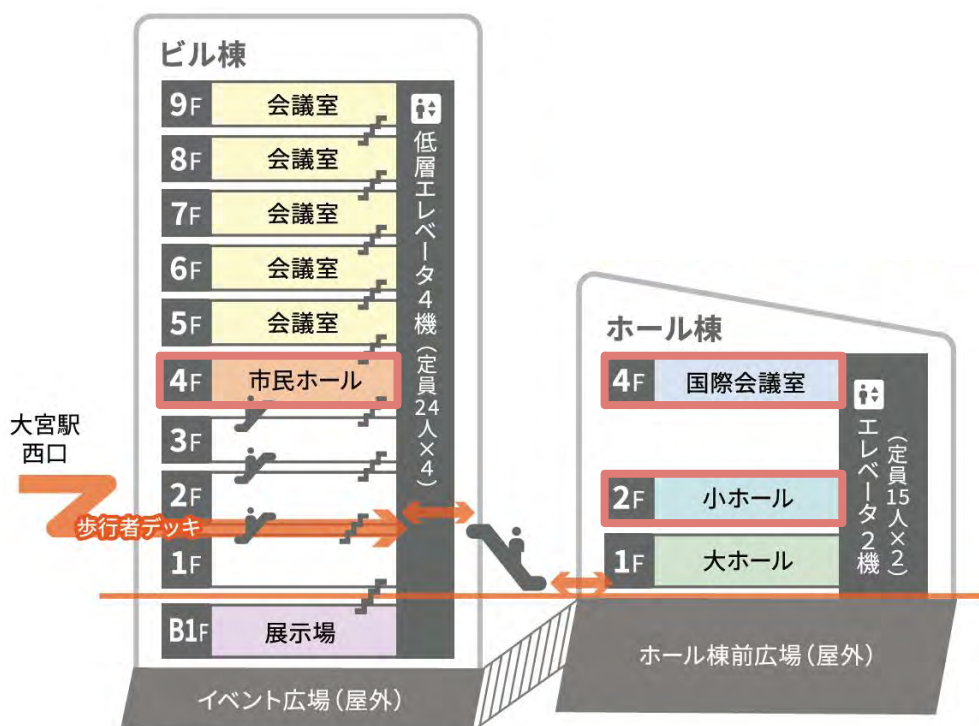


ソニックシティホール
・小ホール（2階）
・国際会議室（4階）



会場アクセス

ソニックシティビルとソニックシティホール間の移動

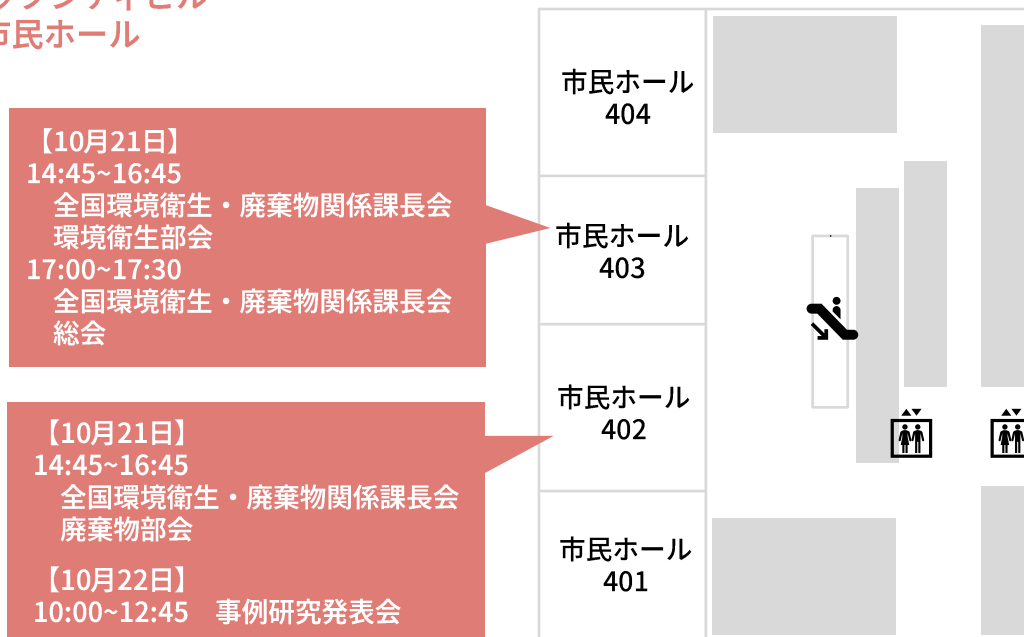


詳細はコチラ

会場図

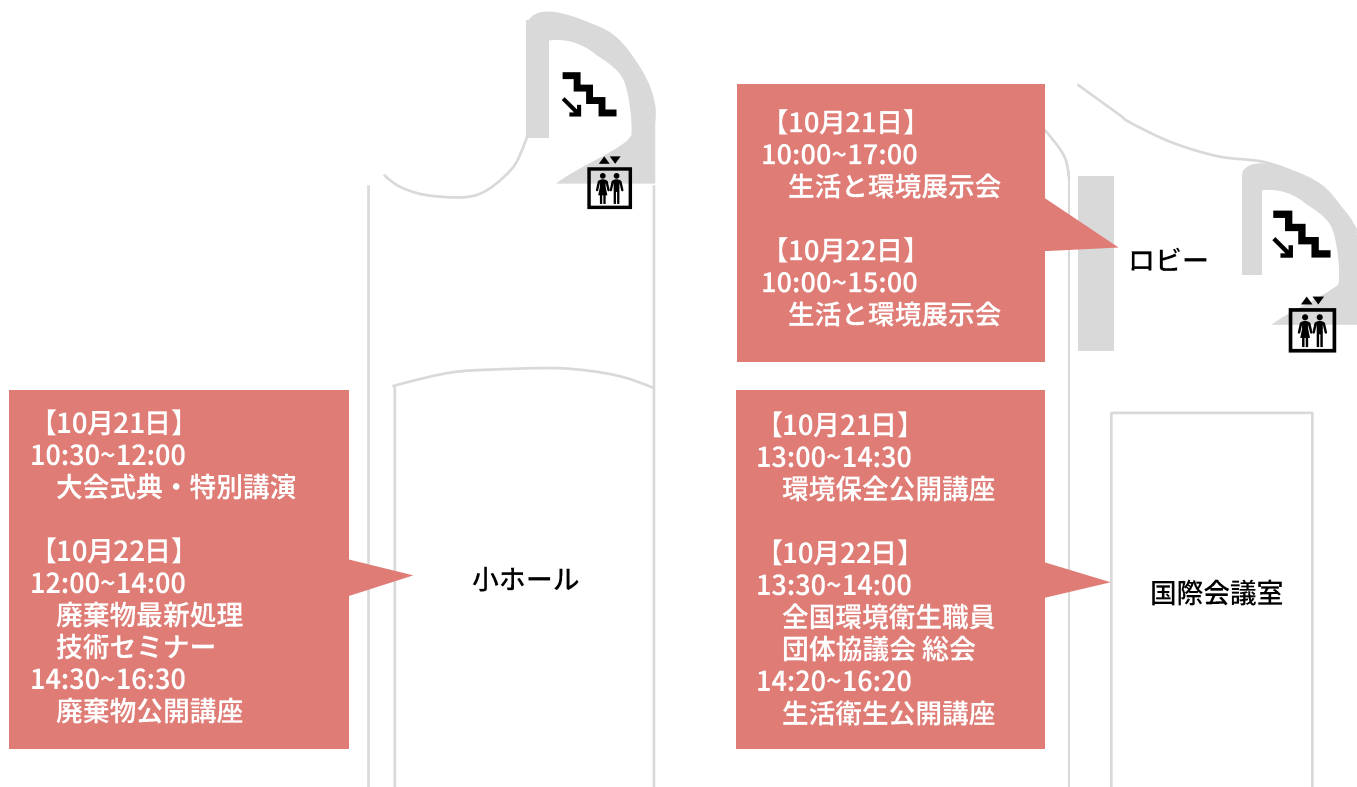
各プログラムの会場及び実施時間

ソニックシティビル 4階 市民ホール



ソニックシティホール 2階 小ホール

4階 国際会議室



大会式典・特別講演

10月21日（水）10:30～12:00 小ホール

特別講演

なぜクマは人里に来るのか？
—生活環境から考える対策—

山崎 晃司 氏（茨城県自然博物館 館長）

環境省令和7年度「クマ類保護及び管理に関する検討会」委員

東京農業大学名誉教授。野生動物管理学を専門とし、クマ類の生態と保護管理を研究。著書に「ツキノワグマすぐそこにいる野生動物」、「ムーン・ベアも月を見ているクマを知る、クマから学ぶ」など。



講演要旨

ここ最近では、2023年と2025年に本州でツキノワグマの出没と人身事故が深刻化した。2023年には210人がクマによる人身事故に遭い、そのうち4人が死亡した。さらに7,677頭のクマが捕殺された。そして2025年には、人身事故は232人（うち11人死亡）に達し、捕殺数も12,262頭にまで増加した。これらの人身事故と捕獲の過半は東北地方で記録されたが、とりわけ注目すべきなのは、人の生活圏内で発生する事例が急増したことである。その背景には、人里で急速に進行する過疎化と高齢化がある。限界集落や消滅集落が増加し、放棄農地だけでなく、十分に管理されない農地も各地で目立つようになった。かつて集落に響いていた子どもたちの声は消え、今では高齢者が静かに暮らす姿があるのみである。そうした集落の周辺には、誰も収穫しなくなったカキやクリがたわわに実り、そのまま放置されている。こうした環境はクマをはじめとする森林性野生動物を強く引き寄せる。しかし、それらを追い払い、人と野生動物との境界を維持してきた地域の活力は、もはや失われつつある。クマの問題は、単なる野生動物管理の課題ではない。それは、衰退する地域社会と私たちがこれからどのように向き合っていくのかという、より大きな問いを突き付けている。

大会式典

受賞された皆様のご功績をたたえ、その栄誉を祝し、表彰式を執り行います。

- ・環境大臣表彰
- ・厚生労働省健康・生活衛生局長感謝状
- ・第70回生活と環境全国大会長感謝状

環境保全公開講座

10月21日（水） 13:00～14:30 国際会議室

テーマ「基準値はどうデザインされるのか：PFAS等の話題から学ぶ」

PFASを事例に、「環境基準値はどのように決められているのか」を分かりやすく解説するとともに、環境省や自治体におけるモニタリングなど、最新の取組をご紹介します。

講演要旨

有機フッ素化合物（PFAS）に関する環境省の取組、及び水道水質基準の設定

築山 直弘 氏 （環境省 水・大気環境局）

近年、社会的関心が高まっている有機フッ素化合物（PFAS）について、環境省では、PFOS・PFOA等の管理の強化や科学的知見の充実など、PFASに対する各種取組を進めている。

具体的には、飲み水からの摂取リスクを減らすため、令和8年4月にPFOS・PFOAについて水道水質基準を施行し、水道事業者等に定期的な水質検査の実施及び基準の遵守を義務付けた。また令和8年6月に「PFOS等の濃度低減のための対策技術集」の公表、「PFOS及びPFOAに関する対応の手引き」の改定（第3版）と進めている。

本講演では、これまでの環境省の取組や、PFASに関する規制の動向や今後の対応について紹介する。

基準値の根拠から考える環境リスク

永井 孝志 氏 （国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構）

世間では基準値を超えた・超えないの騒動が繰り返し起こるが、その基準値自体の根拠や導出過程についてはあまり関心がもたれていない。しかしながら、基準値の意味や導出根拠を知ることは、そのリスクにどのように向き合えばよいかの重要なヒントになる。さらに、基準値の根拠を探ることは驚きの連続で純粋に面白い。

本講演では、さまざまな基準値を例にその決め方の根拠を解説し、そのリスクに向き合うためのヒントを示す。

化学物質の基準値の決め方には大きく分けると、無影響レベルもしくは受け入れられるリスクレベルから換算する方法、分析可能な限界レベルによって決める方法、現状できるだけ低く設定する方法の3種類がある。どの基準値がどのような考え方で決まっているのかを知ることにより、「基準値の〇〇倍！」という表現から判断できることはほとんど無いこと、基準値を超えたときに何が起こるかは基準値の種類によって異なることを理解できるだろう。

埼玉県における河川水のPFASモニタリング

茂木 守 氏 （埼玉県環境科学国際センター）

有機フッ素化合物（PFAS）は、耐薬品性、耐熱性、撥水・撥油性等に優れた化学物質であり、化学工業、半導体製造などの分野で1950年頃から幅広く利用されてきた。

しかし、一部のPFASは、難分解性、環境残留性、動物へのリスク等が指摘されており、中でもペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）とペルフルオロオクタン酸（PFOA）は、公共用水域及び地下水の水質要監視項目として指針値（PFOS及びPFOAの合算値：50 ng/L）が設定されている。

埼玉県では、令和3年度から水質測定計画に基づく県内の河川水のモニタリング調査を実施しているが、埼玉県環境科学国際センターでは、それに先立ち平成18年度から令和3年度まで県内の河川水のPFASの動態等について調査、研究を行ってきた。

本講演では、埼玉県の河川水に関するPFASの調査結果や研究成果、排出源への対応事例等を紹介する。

基準値の信頼を支えるJESCの取組：統一精度管理調査の紹介

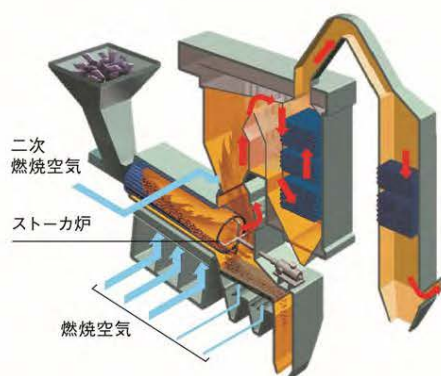
堀内 泰 （日本環境衛生センター 環境科学部）

KOBELCO

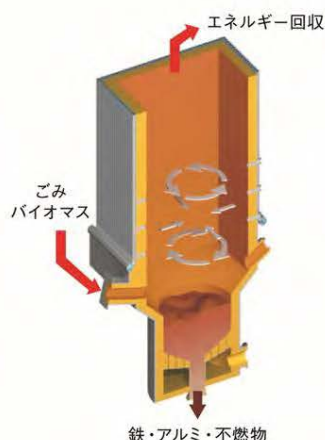
Keep the Earth
Sky-blue

環境にやさしい廃棄物処理技術を提供し、社会と地球の調和に貢献します。

ストーカ式焼却炉



流動床式焼却炉



流動床式ガス化溶融炉



株式会社神鋼環境ソリューション

www.kobelco-eco.co.jp

営業本部 プラント営業部

■神戸本社 Tel.078-232-8264 ■東京支社 Tel.03-5931-3721

廃棄物公開講座

10月22日（木）14:30～16:30 小ホール

テーマ「ごみ量、ごみ質の変化を踏まえた今後のごみ処理」

ごみの量や質の変化、施設整備をめぐる課題を踏まえ、地域におけるこれからのごみ処理のあり方について、講演やパネルディスカッションを通じ、参加者の皆様と考える機会とします。

講演要旨

開発途上国での廃棄物管理能力向上支援：科学技術外交の展開事例

川本 健 氏 （埼玉大学大学院理工学研究科）

経済成長が著しく都市化・工業化が進む開発途上国では、急激な人口流入も相まって都市域や工業地帯を中心に一般・産業廃棄物の排出量が急増している。これらの国々では、廃棄物管理体制が排出量増加に対応できない、廃棄物の再資源化が進まない、といった共通の課題が見いだされる。このため、廃棄物の大半は特定の汚染防止措置を講ずることなく、投棄場への直接投棄や周辺環境への放出が行われ、深刻な社会問題を引き起こしている。

これらを背景に、埼玉大学は相手国政府からの技術協力要請を受けて、スリランカ一般廃棄物投棄場の汚染防止技術開発、ベトナム建設リサイクル促進に関する国際共同事業(JST-JICA 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム；SATREPS)を、相手国研究・行政機関及び埼玉県環境科学国際センターや国内民間企業等と連携して実施してきた。

これらの事業は、相手国の現状やニーズを踏まえ、現地適用可能な廃棄物管理制度・基準設計や新規技術開発に向けた学術的支援、当該分野の高度研究人材育成が含まれることから、我が国の新たな科学技術外交として位置付けられる。本講演では、スリランカとベトナムでの科学技術外交の展開事例を紹介する。

一般廃棄物処理施設の整備・運営について

福井 和樹 氏 （環境省環境再生・資源循環局廃棄物適正処理推進課）

一般廃棄物処理施設は、基幹的な社会インフラであり、平時及び災害時を通じて安定的な機能発揮が求められている。

一方で、人口減少・少子高齢化の進行、ごみ量の減少やごみ質の変化、施設の老朽化など、一般廃棄物処理を取り巻く環境は大きく変化している。また、ダイオキシン対策を契機として整備された施設の更新需要が本格化しており、将来を見据えた持続可能な処理体制の構築が重要な課題となっている。

近年は、こうした処理体制の確保に加え、資源循環・脱炭素化の推進を一体的に進めることが求められている。具体的には、広域化・集約化の促進や施設規模の適正化、製品プラスチックや廃棄物系バイオマスの資源回収促進、分散型資源回収拠点の整備、リチウムイオン電池等の適正処理、廃棄物由来エネルギーの地域内有効利用等の取組が重要となる。

こうした動向を概観するとともに、施設整備・運営に求められる方向性や国の支援施策を紹介し、資源循環と脱炭素化の実現に向けた今後の展望について解説する。

パネルディスカッション登壇者

コーディネーター：藤原 周史（日本環境衛生センター 理事）

朝日環境センター施設整備のライフサイクルコスト縮減に向けた取り組み

今野 純氏 （川口市環境部環境施設課）

川口市は埼玉県南端に位置し、荒川を挟んで東京都に接している。人口は約61万人で、戸塚環境センター（西棟）及び朝日環境センターの2施設で可燃ごみを処理している。両施設とも老朽化が進んでおり、戸塚環境センターでは西棟に代わる新たな焼却施設の建設を進めている。

朝日環境センターでは延命化工事を予定していたが、設備の不具合や故障の頻発、物価上昇に伴う工事費の高騰により、計画の見直しが必要となった。このため、令和6年3月に策定した「朝日環境センター施設整備基本構想」において、整備方法を建替えと見直し、その後本基本構想の具体化に向けて令和8年3月に「朝日環境センター施設整備基本計画」を策定した。

本報告では、近年の建設費の高騰及び今後の更なる上昇を踏まえ、朝日環境センター施設整備におけるライフサイクルコストの縮減を目的として、施設規模の設定及び事業方式の選定などに関する考え方を報告する。

千葉市におけるごみの安定処理に向けた清掃工場の計画的な整備について

谷口 範隆氏 （千葉市環境局資源循環部廃棄物施設整備課）

本市では焼却ごみの安定処理を継続するため、減量・再資源化に取組み、施設の老朽化を見据え、北谷津清掃工場、新港清掃工場、北清掃工場の3工場体制から3用地2清掃工場運用体制へ移行することとした。北谷津清掃工場の廃止後に整備する新清掃工場では、最終処分場の延命化などを考慮し、処理方式についてガス化溶融方式を採用するとともに、施設規模については、災害ごみへの対応や他施設の主灰や破碎不燃残渣の溶融処理を見込んだ。

新清掃工場の整備着手後、新港清掃工場の設備更新に向け、ごみ処理基本計画の将来予測や災害廃棄物処理計画を踏まえ、施設規模の精査を行うとともに、建物劣化度調査のうえ、整備手法について、整備費、工期、工事の環境への影響などにおいて優位性がある既存建屋を活用したリニューアルと決定した。

新清掃工場は本年4月に稼働開始し、現在、令和13年度の再稼働を目指し、新港清掃工場のリニューアル整備を進めている。

新ごみ処理施設整備運営事業の取り組み

江森 裕一氏 （行田羽生資源環境組合）

行田羽生資源環境組合は、埼玉県北東部に位置する行田市と羽生市が、ごみ処理施設の老朽化に伴い新たなごみ処理施設を整備し、廃棄物の共同処理を行うために、令和4年4月1日に設立した一部事務組合である。本組合では、令和6年1月9日にごみ処理施設の整備及び運営に係る入札公告を行い、総合評価型一般競争入札により同年9月30日に株式会社タクマを代表企業とする企業グループと契約を締結。現在は令和10年4月1日からのごみの受入開始に向け施設の建設工事を進めている。

今回は、組合の立ち上げから現在までの事務の流れや特に注意を払った点を含めお話を。特に、建設費が高騰している最中での入札となり、発注の際に実施したコスト縮減のために取り入れた工夫をはじめ、発電をはじめとするリサイクルに関する考え方、剪定枝の資源化など施設の特徴などについて説明する。

生活衛生公開講座

10月22日（木）14:20～16:20 国際会議室

テーマ「建築物衛生の未来を考える & 害虫獣に関する取り組みと課題」

関東圏の自治体等で実施されている環境衛生・生活衛生に関わる取組を紹介します。

講演要旨

建築物衛生法の現状と建築物衛生の未来を考える

本間 義規 氏 （国立保健医療科学院）

建築物衛生法が制定された昭和40年代は、ビルの高層化がスタートし、脆弱な熱性能の建物に強力な中央管理式空調の導入によるビル病増加、自動車排ガスに起因する光化学オキシダント、未舗装道路に起因する土埃、室内喫煙など、室内環境を脅かす要因が多数存在した。これらが法制定の原動力になったことは間違いない。

それから56年が経過し、大気汚染防止法により大気環境は改善するとともに、空調技術の進歩やZEB化の推進など、建物を取り巻く環境は大きく変化した。さらに建物の環境性能が不動産価値を高める重要なファクターとなり、それを裏付けるための室内環境質（IEQ）の見える化も進んでいる。しかし、温度、相対湿度、炭酸ガスの不適率は制定当時から大きく変わっておらず、むしろ年々悪化している。

オフィスの室内環境の実態を検証しつつ、また国内外のビル研究動向を踏まえながら、現代それから未来の建築物衛生について考えたい。

衛生害虫に関する検査事例と研究等の取り組み

儀同 清香 氏 （埼玉県衛生研究所）

埼玉県衛生研究所では、衛生害虫に関する同定検査を行っており、県内の保健所からの行政検査に加え、一般企業等からの依頼による検査にも対応している。

依頼内容は、住居内やその周辺で発見・捕獲された昆虫等について、種類の同定や人への健康被害の有無、刺咬の可能性などを確認するものが多い。また、就寝中や室内で生じるかゆみの原因としてダニ類が疑われる場合には、室内塵を対象としたダニ検査を実施している。さらに、食品営業施設への立入検査時に発見された昆虫等について、発生源の推定や施設指導に役立てるため、保健所の食品衛生担当から依頼を受ける事例もある。

本講演では、このような衛生害虫に関する検査事例を紹介するとともに、検査結果を通じて保健所業務に科学的根拠を提供し、行政対応を支援している衛生研究所の役割について報告する。

また、保健所職員と連携して取り組んだ調査研究や、保健所からの依頼に基づき研修会や標本昆虫を提供した事例、さらに担当で行っている研究について説明し、地域の公衆衛生を支える衛生研究所の活動を紹介する。

鳥インフルエンザ発生時の車両消毒対策の実際と課題について

石井 真氏 （一般社団法人埼玉県ペストコントロール協会会長）

（一社）埼玉県ペストコントロール協会は、高病原性鳥インフルエンザ等の発生時に実施される防疫措置の一環として、車両消毒ポイントの運営について埼玉県と協定を結び対応している。行政と業界団体である社団法人とのパートナーシップには、専門知識と技術を持って速やかに確実に対応できる大きな利点がある一方で、実働の現場運営には多くの苦労もあった。

本講演では、その中から「初動までの時間的制約がもたらす人員確保の困難さ」と、「日替わりで交替する会員間の引継ぎ不足が引き起こす現場の断絶」という、運営における2つの本丸の課題に焦点を当てる。こうした課題に対し、7年間の経験の中で取り組んできた連絡体制の整備や、クラウドを活用したリアルタイムな情報共有体制の構築、継続的な研修による意識改革といった、課題解決に向けた改善の歩みを紹介する。

行政と業界団体のタイアップが、今後よりスムーズに進行する一助となれば幸いである。

環境生物衛生部の取り組みとこれから

塩手 文也 （日本環境衛生センター 環境生物衛生部）



www.jfe-eng.co.jp

くらしの礎を 創る・担う・つなぐ
Just For the Earth
Waste to Energy

廃棄物・リサイクル分野で、国内有数の技術と実績を誇るJFEエンジニアリング。
製鉄事業と造船事業を通して永年培ってきた技術が、豊かで安全な都市環境を創造します。

 **JFE エンジニアリング 株式会社**
JFE 横浜市鶴見区末広町二丁目1番地 〒230-8611
TEL:045-505-7876 FAX:045-505-7657

廃棄物最新処理技術セミナー

10月22日（木）12:00～14:00 小ホール

テーマ「ごみ処理施設におけるデジタル技術の導入とその効果」

一般廃棄物処理施設におけるデジタル技術の活用状況や導入効果について、プラントメーカー各社から最新の取組をご紹介します。
ランチをご用意してお待ちしております（先着順）。

発表企業

- ・カナデビア株式会社
- ・株式会社タクマ
- ・JFEエンジニアリング株式会社
- ・株式会社神鋼環境ソリューション
- ・日鉄エンジニアリング株式会社
- ・川崎重工業株式会社
- ・荏原環境プラント株式会社

エンジニアリングで、なにができる？

未来からのミッションに私たちは挑戦し続けていきます



その情熱で、先端へ
日鉄エンジニアリング

広告に関するお問合せ／サステナビリティ・広報部 広報室
〒141-8604 東京都品川区大崎一丁目5番1号 大崎センタービル
www.eng.nipponsteel.com Tel.03-6665-2000

生活と環境展示会

10月21日（水）10:00～17:00 / 10月22日（木）10:00～15:00 国際会議室前ロビー

出展企業・団体



カナデビア株式会社



株式会社タクマ



JFE エンジニアリング 株式会社

JFEエンジニアリング株式会社



株式会社神鋼環境ソリューション



日鉄エンジニアリング

日鉄エンジニアリング株式会社



川崎重工業株式会社



荏原環境プラント

荏原環境プラント株式会社



株式会社プランテック



株式会社 川崎技研

株式会社川崎技研



株式会社大原鉄工所



水ingエンジニアリング株式会社



みずから、これから。

月島JFEアクアソリューション株式会社

月島JFEアクアソリューション株式会社



一般社団法人
廃棄物処理施設技術管理協会



(公社) 日本ペストコントロール協会
(一社) 埼玉県ペストコントロール協会



抗レジオネラ用空調水処理剤協議会

抗レジオネラ用空調水処理剤協議会

- ・埼玉県環境科学国際センター
- ・一般社団法人全国給水衛生検査協会



スタンプラリー開催！

ご来場の皆様を対象に、展示会会場でスタンプラリーを実施します。

各展示に設置されたスタンプを4つ集めた方には、埼玉にちなんだ景品をプレゼント！景品の交換は、日本環境衛生センターのブースにて行います。



廃棄物処理施設整備・運営に関する 無料相談コーナー

今年も廃棄物処理施設整備・運営に関する相談コーナーを開設します。廃棄物処理施設整備に関する悩みやご相談など、ぜひお気軽にお聞かせください。

日本環境衛生センターのブースにて、お待ちしております。

事例研究発表会

10月22日（木）10:00～12:45 市民ホール402

全国環境衛生職員団体協議会との共催行事です。

全国の自治体や関係機関における環境衛生分野の実践的な取組について、事例研究として発表します。

公衆浴場・宿泊施設・動物愛護・衛生害虫・感染症対策など、日々の業務に直結する幅広いテーマを取り上げ、現場で得られた知見や課題、今後の対応のあり方を共有します。

発表者

発表順	演題	所属	発表者
1	アイラッシュサロンにおける器具の衛生管理について	埼玉県鴻巣保健所	太田 和希 氏
2	航空写真を利用した冷却塔設置場所の把握	千葉県野田保健所	中山 千尋 氏
3	普通公衆浴場における調節槽の実態調査について	東京都大田区保健所	亀井 美樹 氏
4	浴槽設備に着目したレジオネラ属菌の汚染実態の把握と監視指導のあり方	兵庫県保健医療部生活衛生課	城古 晃 氏
5	多頭飼育問題対策事業試行について	横浜市医療局動物愛護センター	菅野 光浩 氏
6	多頭飼育問題の未然防止に向けた全国初の訪問型動物相談支援員の取組等について	神奈川県健康医療局生活衛生部生活衛生課	佐藤 裕郁 氏
7	名古屋市におけるマダニ生息状況調査 マダニ刺咬及び媒介感染症に対するリスク評価について	名古屋市保健所感染症対策・調査センター	天野 賢 氏
8	宿泊施設におけるトコジラミ対策について	北海道滝川保健所	椎名 志野 氏
9	有名観光地の空き別荘を利用した無許可宿泊施設の告発事例	長野県環境部水大気環境課	保科 憲孝 氏
10	荒川区における宿泊施設に対する監視指導の取り組み ～警察に相談・捜査協力するために保健所としてやるべきこと～	東京都荒川区保健所	吉住 允貴 氏
11	円滑な災害対応体制の構築に向けた取組み	大阪府健康医療部生活衛生室環境衛生課	森川 洋佑 氏
12	プログラミング技術とノーコードツールを用いた発生源情報システム内製の取組み	静岡県環境放射線監視センター	小田 祐一 氏

KAWASAKI GIKEN

社会に資する 責務を持って。

私たち川崎技研は、
ごみ処理プラント建設という事業を通して
地域社会に貢献するのはもちろんのこと、
手掛ける業務の一つひとつが、
地球環境の保存に向けた一助となるように。
未来の子どもたちへ、美しい日本を、
世界を受け継いでいくという使命を
「私たちの約束」として、
さまざまな活動に尽力しています。



 **株式会社 川崎技研**

本社 〒815-0035
福岡県福岡市南区向野1丁目22番11号

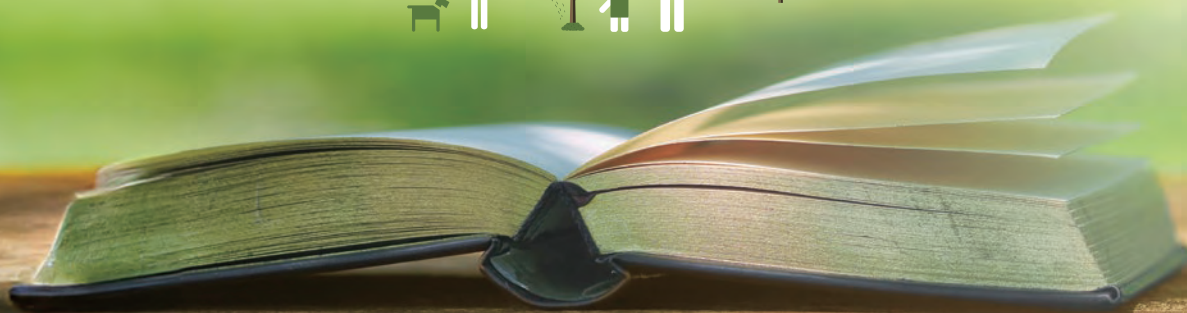
支社・支店 ■ 東京支社 ■ 関西支店

営業所 ■ 広島営業所 ■ 沖縄営業所

<http://www.kawasaki-giken.com/>



ごみから、 はじまるストーリー。



まちにベストな物語を、ともに紡ぎたい。

川崎重工は、ごみ処理施設の建設・運営を通じて、環境に対する意識の向上を図るとともに、地元企業の活性化や雇用促進を行い、まちの新たな活力を創造します。
また、実績のある安全・安心・安定の技術に加えて、AIやIoTを活用した先進技術も導入することで、地域の環境保全からカーボンニュートラル社会の実現に貢献します。

<https://www.khi.co.jp/>

 **Kawasaki**
Powering your potential

川崎重工業株式会社

東京本社
〒105-8315 東京都港区海岸一丁目14番5号 Tel:03-3435-6655
関西支社
〒530-0057 大阪市北区曽根崎二丁目12番7号(清和梅田ビル) Tel:06-6484-9317
九州支社
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前一丁目4番1号(博多駅前第一生命ビル) Tel:092-432-9557

